



今回は世界遺産（1979年登録）のクロアチア・ドブロブニクです。アドリア海沿岸ダルマチア地方の最南部にあり、旧市街は「アドリア海の真珠」と称され、ジブリ映画「魔女の宅急便」や「紅の豚」のモデルになった街とも言われています。旧市街は一周2km程の城壁で囲まれていて、その上が反時計回り一方通行の散策観光コースになっています。

クロアチアといえば1990年代のユーゴスラビア崩壊後の紛争が記憶に新しいところですが、ドブロブニクもユーゴスラビア軍の包囲攻撃で大きく破壊されたそうです。その後観光立国クロアチアとして他の地域と共に20年程の短期間で修復復興されたとの説明を受けて、「日本も終戦後19年で東京オリンピックまで開催しているな」と比べていました。この旅行時の10月末に年初からの訪日外国人が2,000万人を超えたことがニュースになっていましたが、クロアチアは年間1,400万人の入国旅行者があると聞きました。初めは随分多いなと思いましたが、ドブロブニクが飛び地になっているので、私もこの旅行中に合計4回クロアチアに「入国」しました。こんなことも影響しているかなと思いました。



上の写真は、旧市街から東1km程の展望所から撮ったものですが、そこからでも、プラツァ通り東端の時計塔の鐘楼にある鐘突き男の像が確認できました(左写真)。



1945年にユーゴスラビア社会主義連邦共和国が出来ましたが、「七つの国境、六つの共和国、五つの民族、四つの言語、三つの宗教、二つの文字と一人のチトー」と、ひとつの国であることが不思議と言われていました。1980年のチトー大統領の死後、冷戦の終結もあって、各共和国の政権を民族主義者が握り、1990年にセルビア共和国がコソボ自治州を合併しようとしたことから紛争が勃発、その後、スロベニア、マケドニア、クロアチアと各共和国が順次独立を宣言。そのような中でドブロブニクは1991年10月から7か月間の包囲攻撃を受けています。城壁の西に面したピレ門に入ってすぐ中に、ユーゴスラビア軍の攻撃で受けた損害の説明があります。砲撃の直撃での屋根破損、焼け落ちた建物、破片での屋根破損、道路舗装の破損個所が色分けして示されていました(左写真)。



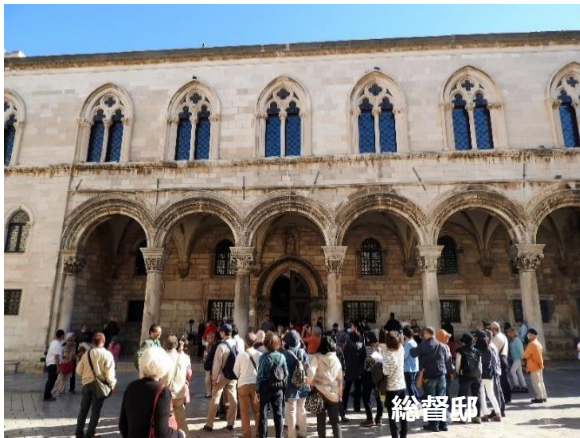
フランシスコ修道院  
世界で3番目に古い薬局



プラツァ通り 西向き



スポンザ宮殿



総督邸



グンドリッチ像

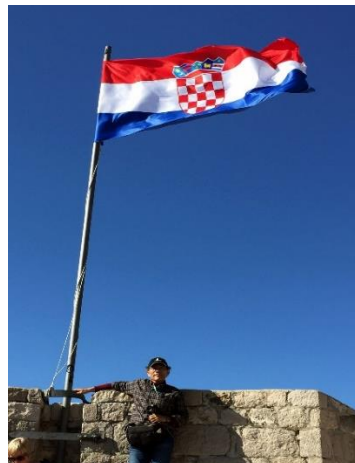


グンドリッチ広場 青空市場

城壁の上は、内外が見下ろせ市街の様子がよく分かる観光コースです。西側城壁外のロブレイエナツ要塞もセットで入場料は2016年当時120クーナ(約1,900円)でした。一方通行ですが出入り口が3か所あり、一周せずに途中で降りることもできます。角々には要塞があり北端のミンチェタ要塞が最高所で、旧市街越しに旧港まで見渡せます。その背後の標高約420mのスルジ山頂(北側城壁外からロープウェーで登れる)には、展望所や戦争博物館があります。南側の海沿いには、城壁上や城壁外の崖下にカフェがあります。東端の聖イヴァン要塞には、海洋博物館もあります。



城壁最高所 ミンチェタ要塞



スルジ山



オソプリオ大噴水(泉)



砲撃被害未復旧場所



犬石? ダルメシアン?



城壁上のカフェ バックはロクルム島



城壁東端 聖イヴァン要塞



海洋博物館もある



ドブロブニク旧港



プラツァ通り(東向き)



聖クララ女子修道院

北西 2km のドブロブニク新港には大型クルーズ船も停泊していました。  
 中世には、ドブロブニクはラグーサ共和国としてベネチアやアマルフィ  
 等海洋共和国やオスマン帝国と覇権を争っていたようです。西北西 90km  
 程しか離れていないコルチュラ島(現クロアチア)はマルコポーロの生誕  
 地との説もあります(当時はそこまでベネチアだったと思われる)。ドブロ  
 ブニクが飛び地になっているのは、1699年に領地の小区画をオスマン帝国に割譲したことで、北西 60km 程のネウムが  
 現在はボスニア・ヘルツェゴビナの唯一の海岸線になっているからです。



ドブロブニク新港

(写真撮影: 2016.10.30)

<google 地図参照>

ドブロブニク <https://www.google.co.jp/maps/@42.6416725,18.1090472,16.63z>

スルジ山頂 <https://www.google.co.jp/maps/@42.6487591,18.1121066,18.83z>

(2020.06.01)